

校長室だより

春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

35年前

35年前、母校である春日東小学校に新任教師として赴任しました。何もできないくせに、何でも自分でできるような顔をした、かわいげのない人間でした。

授業はへたくそで、いつも進度は遅れ気味。今思い返すとぞっとします。自分の新任時代と今の若い先生たちとを比べると、彼らは、なんとできた人たちだろうと感心します。

それでも心がけていたのは、子どもの日記に毎日目を通して必ずコメントを書き添えること。昼休みは欠かさず子どもたちと外で遊ぶこと。

教師は授業が命と言いますが、真逆の教師生活を送っていました。

「俺は先生」

私が教員になった頃、「俺は先生」という本が出版されました。三好京三さんの作品です。

出兵していた若者が、終戦と同時に復員し、東北の貧しい村の学校の教員生活を送るお話です。世間を知らない村の子どもたちに、様々な体験をさせながら先生と子どもたちの心が結ばれていきます。

はじめての遠足に喜ぶ子どもたち。子どもが弁当のふたを開けると、そこには麦飯とたくあんだけ。麦飯にふやけたたくあんを、大好きな先生に差し出す子ども。それを「うまい」と言って食べる先生……。

当時は、小説の中のそんな先生にあこがれていました。

俺も先生

そう言えば、はじめて校長になった遠足の日、鼻炎で青ばなを垂らしている1年生が、手で青ばなをぬぐい、その手であめ玉を握りしめて私に差し出したことがありました。この時、ずっと昔に読んだ小説「俺は先生」が頭をよぎりました。私は、「ありがとう！」

と言ってそのあめ玉を口にくわえました。あの時のあめ玉の味は忘れましたが、あの時のうれしそうな1年生の顔は未だに覚えています。

俺も先生！！



あぶない先生

昭和のあの時代だったから許されたことだと思います。

教員3年目、3年生の担任となり、学級の子どもたち全員を学校に泊めて肝試し。危なかった!(*。∩。)

高学年を担当した時は、子どもたちと廃品回収でお金を作り、クラス全員で二日市温泉へ。味を占めた子どもたちは、予算計画係を作り、計画的に廃品回収を実施し、再び二日市温泉へ。さらに、調子に乗った我がクラスは、バスをチャーターして筑紫耶馬溪へ。

当時は、校区の外れに銭湯が1軒あり、クラス全員で銭湯に入りに行ったこともありました。

あれもこれも遠い昔。
わがままで、独りよがり
思い返せば危険がいっぱい。
あぶない先生でした。

春日小学校で幸せでした

いよいよ35年間の公立学校での教職生活を終えることになります。その時を春日小学校で迎えることができること、本当に幸せです。

この子どもたちと出会えたこと
温かい保護者の方々
頼りがいのある地域みなさんと
出会えたこと
そして、深い愛情と知恵のある
春日小学校の先生たちと一緒に
仕事ができたと
こんなに幸せなことはありません。
みなさん、本当にありがとうございます。
しました。